

臨床研究「L-アミノ酸トランスポーター・膜タンパク質・糖鎖などの腫瘍マーカーのヒト組織における解析」について

土浦協同病院病理診断科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

ヒト組織を対象に、診断薬の候補を見出すためのがんマーカーの探索を行います。がんバイオマーカーの候補として、細胞伝達経路を介し、タンパク合成、解糖系・脂質合成系や細胞増殖細胞の成長に関与し、且つがん細胞においては通常の細胞よりも発現が高まる分子がターゲットとなり、例えば細胞膜タンパク質のような分子が有用です。また、このような細胞伝達系関連因子は従来とは作用機序の異なる腫瘍マーカーである可能性があり、単独及び従来品との組み合わせによる有用性検証が待たれています。

また、タンパク質のリン酸化によるシグナル伝達経路は、がんの発生、がんの治療の局面において非常に重要な役割を果たしており、例えば EGFR などは肺がんなどにおいて作用機序が明らかにされ、がんの発生の考察、がんの診断、治療において不可欠なバイオマーカーとなっています。

本研究では富士レビオ株式会社が保有する・入手できる数多くの抗体について、診断薬としての可能性を検討します。

② 研究対象者

1999年4月～2019年7月までに土浦協同病院で、悪性腫瘍に対する手術が行われた患者様。

③ 研究期間：倫理委員会承認後～ 2021年 7月

④ 研究の方法

(1) 候補物質のがん特異性、がん分類、がん悪性度、経過観察に関する有用性検証

- 方法：がん分類、各ステージ、におけるがん/非がん組織の病理試料を用いて、腫瘍マーカーの組織染色比較を行う。
- 検体：各がん分類 100 例以下、各がんステージ 30 例以下、各臓器非がん部 30 例以下。
陽性：がん部、陰性：非がん部。
- 判定：病理医による染色判定を行う。

(2) LAT1 および候補物質の免疫組織染色と免疫定量測定と比較

- 方法：新規腫瘍マーカー及び各種抗体を用いて、免疫組織化学染色を対照に病理試料を用いた免疫定量測定を行い、両測定法を比較する。
- 検体：各がん分類 100 例以下、各がんステージ 30 例以下、各臓器非がん部 30 例以下。
陽性：がん部、陰性：非がん部。
- 判定：両測定法の比較（相関性試験）を行う。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

疾患名、年齢、性別、病期、病理診断、病理標本画像またはスライド

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

土浦協同病院 病理診断科 研究責任者 科長 坂下信悟

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

〒300-0028 土浦市おおつ野四丁目1番1号

TEL 029-830-3711（代表）

所属・担当者名：病理診断科 坂下信悟（月-金 9:00～17:00）